

Naruto Translate Ep01 (Parte 02)

- 1- (ミズキ) よくここが分かったな。
- 2- (イルカ) なるほど そういうことか。
- 3- (ミズキ) ナルト、巻物を渡せ。
- 4- (ナルト) あのさ・・・あのさ どうなってんの？これ。
- 5- (イルカ) ナルト、巻物は死んでも渡すな！
- 6- それは 禁じ手の忍術を記して封印した危険なものだ！
- 7- ミズキは それを手に入れるため、お前を利用したんだ！
- 8- (ミズキ) ナルト、イルカは お前がそれを持つことを恐れているんだ。
- 9- (イルカ) 何を言っている！？ミズキ！
- 10- だまされるな！ナルト。
- 11- (ミズキ) ハハハ・・・本当のことを教えてやるよ。
- 12- (イルカ) ば・・・ばか よせ！
- 13- (ミズキ) ^{じゅうに}12年前の事件以来 里にはあるおきてが作られた。
- 14- (ナルト) あるおきて？
- 15- (ミズキ) それは、ナルト、お前にだけは決して知らさせることのないおきてだった。
- 16- (ナルト) 俺にだけ？何なんだ！？そのおきてって。
- 17- (イルカ) 止めろ ミズキ！

18- (ミズキ) ナルトの正体が 化けぎつねだと口にしな いて おきてだ。

19- つまり、お前が イルカの両親を殺し里を壊滅させた九尾の妖狐なんだよ。

20- お前は 里のみんななにずっと駄目されていたんだよ。

21- おかしいとは思わなかったか？

22- あんなに毛嫌いされて。

23- (ナルト) 《チクショ！チクショ！チクショ！チクショ！チクショ！》

24- (ミズキ) お前なんか 誰も認めやしない！

25- イルカだって お前が憎いんだ！

26- (猿飛) 《イルカよ。ナルトは親の愛情を知らず。》

27- 《里の者には あの事件のことで煙たがられる。》

28- 《だから、人の気を引くために いたずらをするしかなかったのじゃ。》

29- 《どんな形であれ 自分の存在 価値を認めてほしかったんじゃないよ。》

30- 《強がってはいるが、つらいのはナルトのほうじゃ》

31- (ミズキ) 死ね！ナルト！

32- (イルカ) ナルト！伏せろ！

33- (ナルト) な・・・何で？

34- (イルカ) 同じだからさ。

35- 両親が死んでから誰も俺のことを褒めたり認めてくれる人がいなくなっちゃった。

36- 出来の悪かった俺は クラスでよくばかをやった。

37- 人の気を引き付けたかったから。

38- 優秀なほうで人の気が 引けなかったからずっとばかやってたんだ。

39- 苦しかった。

40- そうだよなあ、ナルト。

41- 寂しかったんだよなあ。

42- 苦しかったんだよなあ。

43- ごめんなあ、ナルト。

44- 俺がもっとしっかりしてりゃ こんな思いさせずに済んだのに。

45- (ミズキ) フッフッフ・・・笑わせるぜ！

46- イルカは 自分の両親を殺したお前をずっと憎んでいたんだ。

47- 何だかんだいって、巻物を取り戻したいだけなんだ。

48- (イルカ) ナルト！ナルト~~~！

49- (ミズキ) ハハハ・・・ナルトは心変わりするようなヤツじゃねえ。

50- あの巻物でこの里に復しゅうするぞ。

51- さっきの あいつの目見たろ？化けぎつね目だ。

52- (イルカ) いや！ナルトは そんなヤツじゃない！

53- (ミズキ) ナルトを始末して あの巻物さえ手に入れりゃ それでいいんだ。

54- お前は後回しだ。

55- (イルカ) 《させるか》

56- (猿飛) 《やれやれミズキのヤツしゃべりおって。》

57- 《ナルトは今までになく不安定じゃな。》

58- 《術で抑えられていた力を解放するやもしれん。》

59- 《その上 封印の書も手の内にあるとなると》

60- 《自力で封印を破り 九尾の狐が現れる可能性も 万に一つだが考えられる。》

61- 《そのときは・・・》

62- (イルカ) 《見つけた！》

63- (イルカ) ナルト！さっきミズキが言ったことはでたらめだ！

64- 早く巻物をこっちに渡すんだ！ミズキが巻物を狙ってる！

65- そ・・・そんな。どうしてだ？ナルト。

66- どうして・・・イルカじゃないと分かった？

67- (イルカ) イルカは俺だ。

68- (ミズキ) なるほど。親の敵に化けてまであいつをかばって 何になる？

69- (イルカ) お前みたいな ばか野郎に巻物は渡さない。

70- (ミズキ) ばかは お前だ。ナルトも俺と同じなんだよ。

71- あの巻物の術を使えば何だって思いのままだ。

72- ナルトが 化けぎつねが巻物の力を利用しないわけがない。

73- (イルカ) ああ そうだな。

74- (ナルト) 《ケッ やっぱそうだってばよ。》

75- 《ほらな。イルカ先生も本心では俺のこと・・・認めてねえんだ!》

76- (イルカ) 化けぎつねならな。けど、ナルトは違う。

77- あいつは・・・あいつは この俺が認めた優秀な生徒だ。

78- 努力家で いちずで

79- そのくせ不器用で誰からも認めてもらえなくて

80- あいつは人の心の苦しみを知っている。

81- あいつは化けぎつねなんかじゃない。

82- 木葉の里の うずまきナルトだ!

83- (ミズキ) ケッ めでてえ野郎だな。

84- イルカ! お前を後回しにするつつったが やめた。

- 85- さっさと死ね~！
- 86- (イルカ) 《これまでか・・・》
- 87- (ミズキ) やってくれるじゃねえか。
- 88- (ナルト) イルカ先生に手 出すな。殺すぞ！
- 89- (ミズキ) ほざくな！てめえみたいなガキ一発で けりつけてやるよ。
- 90- (ナルト) やってみろよ！カス！
- 91- 千倍にして返してやっから。
- 92- てめえこそ！やれるもんならやってみろ！化けぎつね！
- 93- (ナルト) 影分身の術！
- 94- (イルカ) 《ナルト、お前・・・影分身の術》
- 95- 《実体そのものを作り出す高等 忍術》
- 96- (ミズキ) 何だと？
- 97- (ナルト) べろべろびゃ！来いってばよ！
- 98- それじゃ・・・こっちから行くぜ！
- 99- エヘヘヘ・・・ちっと やり過ぎちゃった。
- 100- イルカ先生。大丈夫か？
- 101- (イルカ) あ・・・ああ。
- 102- 《大したもんだ。こいつ ひょっとすると本当に どの火影をも・・・》
- 103- ナルト、ちょっところちに来い。
- 104- (忍び1) ナルトのヤツ見つかったか？
- 105- (ヤジロベエ) ダメだ。

106- (忍び2) くそ！

107- えらいことになったぞ！

108- (猿飛) もう心配することはない。

109- もうじき帰ってくるじゃろう。

110- (ナルト) 先生 まだ？

111- (イルカ) よし！もう目開けていいぞ。

112- 授業 おめでとう。

113- よし！卒業 祝いだ！

114- ラーメン おごってやるぞ。

115- (ナルト) イルカ先生~！

116- (イルカ) あ~！痛えよ おい！

117- 《ナルト、忍びにとって本当に大変なのは》

118- 《これからだって 説教するつもりだったが、それは ラーメン屋まで我慢しといてやるか》

119- (Ending...)

120- 〈な・・・何だってばよ。このチビ人の後くっついてんな！〉

121- 〈おまけに俺よかガキのくせに五代目 火影になるって？〉

122- 〈あのな 火影のじいちゃんの孫だか何か知んねえけど〉

123- 〈火影 名乗んのは そんな簡単じゃねえんだか！〉

124- 〈そんなに欲しけりやな この俺をぶっ倒してからにしろ！〉

125- 〈次回！木ノ葉丸だコレー〉

126- 〈俺ってばまた活躍しちゃうってばよ！〉

